

遠くたって大丈夫!

県立博物館は鳥取県内各地域に出かけます!

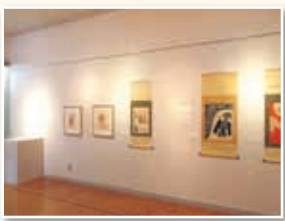
博物館から離れた地域の方々にも気軽に鑑賞していただくために、県内各地域にある展示施設を会場に展示を行っています。

移動美術館 (美術分野)



今年開催した石谷家住宅での展示

展示するのは主に鳥取県にゆかりのある優れた作家たちの作品で、油絵を中心に日本画や版画、ときには大きな彫刻作品などまで紹介しています。毎回当館の学芸員が会場の方と一緒にテーマを決めていますので、その都度オリジナルの展覧会が楽しめます。今年はずでに智頭石谷家住宅で一回開催し、次は秋に日南町美術館に出かけます。ぜひお近くの方は立ち寄りください。



昨年の移動美術館・北栄展の様子

移動博物館 (自然・人文分野)



これまでの移動博物館の様子

県立博物館の所蔵している自然、歴史や民俗の資料で構成した移動博物館をみなさまの街で開催します。学芸員が滞在して、展示品の紹介や、みなさまからのおたずねに対応するスペシャルデーもあります。※詳しくはHP、チラシ等でお知らせします。



これまでの移動博物館の様子

移動博物館・北栄展 会場 北栄町北栄歴史民俗資料館(東伯郡北栄町田井) 会期 平成29年10月7日(土)～10月18日(水) 休館日:10月10日(火)・16日(月)

移動美術館・日南展 会場 日南町美術館(日野郡日南町霞) 会期 平成29年9月24日(日)～10月8日(日) 休館日:会期中の月曜日

問合せ先 県立博物館 【電話】0857-26-8042 【FAX】0857-26-8041 HP <http://www.pref.tottori.lg.jp/museum/>

博物館資料紹介

池田光政 領地判物

企画展「池田光政展」は10/7～11/12 県立博物館で開催!



縦41.0cm 横56.0cm 時代/元和4年(1618年) 発給者:池田幸隆(光政) 受取者:波多野久八

今年、江戸時代屈指の大名であった姫路城主の池田光政が、国替えによって因幡・伯耆国に入府してから400年に当たります。この国替えによって、一人の大名が因幡・伯耆の2国を管轄する(ただし大山寺領は除く)という鳥取藩32万石の枠組みが初めて形成されました。現在の鳥取県はこの枠組みをほぼ引き継いでいるという意味で、光政の入府はいまにつながる大きな出来事だったといえるでしょう。国替え当初の池田家は、姫路42万石から鳥取32万石に石高を減らされた影響で、数々の難題に

直面しました。なかでも課題となったのは、家臣に対して同額の知行高を維持する方法でした。写真は池田光政が国替えの翌年に、250石の知行高を禄として家臣の波多野久八に与えた文書(領知判物)です。この文書によって家臣は姫路時代と同額の知行高を与えられていたことがわかります。しかし、手取りは姫路時代の約6割に下げられていました。国替え当初の苦労を垣間見ることができるこの古文書は、貴重な歴史の証言者ともいえるでしょう。

シリーズ 市町村教育委員会の取組紹介

鳥取県の各市町村(学校組合)教育委員会が行っている取組を紹介いたします。

倉吉市 中部地震から10ヶ月 ～多くの支援に感謝しながら～

多くの被害をもたらした昨年10月の鳥取県中部地震。倉吉市立学校給食センターも大きな被害を受け、5ヶ月以上、調理することができませんでした。今年4月より給食を再開していますが、給食停止中、多くの方々から支援と励ましをいただいたことに改めて心より感謝します。



- 保護者の方の弁当準備、地域の方々による炊き出し
- 中部地区4町(三朝町・湯梨浜町・北栄町・琴浦町)からの副食の提供
- 鳥取短期大学の調理施設を借りての汁物を中心とした調理
- 鳥取県等の補助を受けての民間事業者からの副食の提供
- 県内小中学校PTA、中国地区PTA協議会等からの学校給食にかかる支援金

こうした支援に対し、児童生徒は普段あたり前と思っていた給食があたり前ではないことに気づき、感謝の気持ちをもつことができたようです。

「大地揺れ やっと気づいたありがたさ 命のバトンいただきます」

(平成28年度倉吉市給食週間標語優秀作品)

給食のこと以外でも多くのご支援をいただきました。兵庫県教育委員会の震災・学校支援チームの方からは子どもたちの心のケアについてアドバイスをいただきました。また、鳥取県教育委員会にはスクールカウンセラー、県内の市町村教育委員会からスクールソーシャルワーカーの派遣と子ども達への対応をしていただきました。

あたり前の生活がいかに尊いものであるか、また、多くの方々の支援がいかに温かいものであるか、子どもたちは身をもって学びました。そんな中で、困難なことにも負けず、力強く未来を切り開いていくとする子どもたちの姿が数多く見られました。

中部地震から10ヶ月。この地震を過去のものとして、防災教育・防災学習の一層の充実を図るとともに、周りに感謝し、たくましく成長する子どもたちの育成を学校・家庭・地域が一体となって取り組んでいきたいと考えています。

「多くの人たちが私達のことを支えてくださっている。悲しんでばかりられない。みんなが協力し合い助け合うことができれば、今までの素敵な倉吉に戻るはずである。復興の光はきっとある。だから私達は、希望を捨てず頑張っていきたい。」 (市内小学校6年児童作文より)

問合せ先 倉吉市教育委員会学校教育課 【電話】0858-22-8166 【FAX】0858-22-1638

境港市 うきうきイングリッシュ

国際空港があり、クルーズ船が数多く寄港する境港市ならではの取組として、平成28年度より小学生高学年を対象とした英語活動「境港うきうきイングリッシュ」を、毎月1回土曜日に開催しています。この取組は、島根大学教育学部の学生とパンブラディッシュや中国、ギニアなどの留学生の方に参加してもらい、楽しみながら英語を使った活動を行い、コミュニケーション力や国際感覚を養うことを目的としています。

昨年度は、8月から2月までの間に7回実施し、小学生38人の参加がありました。英語を使いながら、「留学生のお国紹介」「外国の遊び」「ハロウィーン」「クリスマス」「境港の紹介」などをテーマに活動しました。11月12日に行った「お菓子づくり」では、留学生の国の伝統的なお菓子を英語で紹介してもらい、料理に関係した英単語を学び、学生と留学生とともにホットケーキ作りをしました。

参加した小学生の感想の中には「英語を使えば、色々な国の人とコミュニケーションが取れることがわかった」「学校の学習で復習したら、すらすら言うようになった」「英語ばかりでなく、色々な国の言葉が学べて良かった」などがあり、有意義な活動ができたと思っています。

今年度は、7月から2月までの合計8回を予定しています。色々な国の方が訪れる観光地「境港」の将来を担う小学生たちに、コミュニケーション力の一つとして欠かせない英語に親しみ、楽しみながらできる活動を今後も実施していくことにしています。



島根大学の留学生や学生とホットケーキ作りをする小学生

問合せ先 境港市教育委員会学校教育課 【電話】0859-47-1088 【FAX】0859-47-1109



境港総合技術高等学校

地域とつながる土曜授業

本年度の土曜授業等実施事業

- 海洋科…●魚の神経締めPR活動(中野港漁村市・境港水産まつり) ●タッチプール(中野港漁村市・海とくらしの史料館・境港市福祉文化祭・鳥取県水産試験場・なかよしフェスティバル)
- 食品・ビジネス科…●実習製品販売(中野港漁村市・境港水産まつり) ●まぐろ感謝祭 ●アンテナショップ「シーサー」 ●新巻鮭販売会
- 機械科…●マイコンカー(なかよしフェスティバル)
- 電気電子科…●魚の神経締めPR活動(中野港漁村市・境港水産まつり)
- 福祉科…●交流ステージ(夢みなと子どもまつり・境港市福祉文化祭(いきいき浜っこ祭)・まつぼっくり夕涼み会)

生徒の感想から 初めてのイベント参加で大変緊張しました。漁村市に来て下さった方々に神経締めの効果や良さをわかっていただき良かったです。また、機械科の生徒が製作した道具を使用うまくできました。とても良い体験ができました。(魚の神経締めPR活動に参加して)

自分たちが発案、製造した製品を販売し、地域の方に喜んでいただき良かったです。また、接客をおして地域の方々に関われることができた良い体験となりました。これからも境港産の水産物をアピールしていきたいです。(中野港漁村市、まぐろ感謝祭に参加して)

境港総合技術高等学校は、総合選択制の専門高校として開校15年を迎えました。水産・工業・福祉の専門学科では、実践的な学びをとおして「地域とつながる人材育成」「学科・科の枠を越えた各科の連携」「6次産業化等に対応した地域産業の担い手育成」に取り組んでいます。また、土曜授業等実施事業では、地域に出かけて、学校の学習内容を発信したり、地域の活性化の一助となるよう活動したり、さまざまな世代や立場の方々や触れ合うことで、コミュニケーション能力や豊かな人間性を育成しています。

さらなる連携を目指して(鳥取県版SPH事業:各科連携)

地域と連携した特色ある教育活動の実践に加え、多種多様な知識・技術を身につけるために他科と連携をします。他科の生徒との話し合いを行うことで、生徒間のネットワークが広がり、意見交換や知識を共有する中で、社会の変化に柔軟に対応できる人材を育成していきます。

- 実習製品販売(イカ乾燥機製作、イカ釣り、イカの麺製造等)【海洋、食品・ビジネス、機械】
- 子どもとの関わり方学習(タッチプール、マイコンカー)【海洋、機械、福祉】
- 魚の神経締め用具製作及びPR活動【海洋、機械、電気電子】
- LED灯による集魚研究及びPR【海洋、電気電子】
- 食育教材研究及びレトルト食品開発【食品・ビジネス、福祉】
- 介護用具の開発及び点検【機械、福祉】
- 宣伝用看板及びプロジェクションマッピング製作【電気電子、福祉】



問合せ先 鳥取県立境港総合技術高等学校 【電話】0859(45)0411 【FAX】0859(45)0413

シリーズ 鳥取県のエキスパート教員

鳥取県では、優れた教育実践を行っている教員を「エキスパート教員」として認定し、教員全体の指導力向上を図っています。今回は、鳥取県学校ひまわり分校の谷田育子教諭(認定分野:自立活動)にお話を伺いました。

「きこえにくい」子どもたちが自分らしく生き生きと生活できるために

「きこえにくい」という障がいは、身体的には軽い障がいと思われがちですが、実際はとても困難の多い障がいです。きこえにくいことによる情報の不足から、発音やことば、学習の理解等、日常生活や学習の中でさまざまな困難が生じます。そのつまずきや困難を軽減したり、自らの障がいを受けとめたりできるように、「自立活動」の学習で様々な活動を行っています。

「子どもが楽しんで学ぶこと」

「か」と発音する時、口の中や舌の状態がどのようになっているか、考えたことがありますか。きこえにくい子どもたちにとって、「か行」の音は発音しにくい音の1つです。1つ1つの音が明瞭に発音できるように、口や舌の動き、息の出し方などを練習するのも自立活動の内容の1つです。シャボン玉を吹いたり、ピンポン球を息で転がしたり、スプーンの



蜂蜜を舌でなめとったり…。そんな、遊びのように思われる楽しい活動が、すべて発音の学習につながっていきます。明瞭に発音できる音を増やしていくことで、スムーズなコミュニケーションへとつなげていくことをめざしています。

「まず、自分のことを知ることから」

その他にも、自分のきこえについて理解する学習、助詞正しい使い方の学習、身のまわりの様々な言葉の学習…など、豊学校の出口(卒業)に立った時に、ある一定の学力・知識を身につけ、さまざまなコミュニケーション手段を使い分け、自分のことを正しく理解して相手に説明したり助けを求めたりできることを目標に、日々指導にあたっています。



「授業は先生と子どもとのコラボレーション」

聴覚障がい児への発音・発語指導で著名な先生の言葉です。先生が子どものことをよく理解し、子どもに合ったやり方でアプローチしなければ、また、子どもが先生の話をきこうとしなければ、授業は成立しません。コラボレーションするために一番大切なもの、それは先生と子どもとの信頼関係です。子どもの実態を把握し、子どもの持つ可能性を信じて楽しく授業をする先生と、先生のことが好きで、安心して話をきこうとする子どもとの信頼関係の上に、「わかった実感」「できる喜び」が味わえる授業が成立するのではないのでしょうか。1回でも多くコラボレーションした授業ができるよう、今後も努力していきたいと思っています。

問合せ先 県教育委員会特別支援教育課 【電話】0857(26)7575 【FAX】0857(26)8101

シリーズ プロ(文化財主事)が教える文化遺産のツボ!

第26回 はなかごまつり 花籠祭 ～地域で節目を祝う～

県東部の山間部を中心に、華やかな花籠を作って神社に奉納する「花籠祭」が広い範囲で行われています。今はしていないところも含めると90近い地域に分布しており、地域によって時期が異なるのですが、9月終わりから10月終わりまでの秋の氏神祭に行われることが多いです。

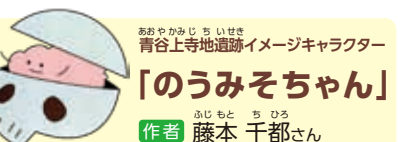
花籠とは細く割った竹に五色の色紙を巻き付けたもの(花またはヤナギと呼びます)をたくさん作って、それを竹籠に刺したもので、背負うタイプのものと肩に担ぐタイプのものがあります。花籠は稲の花またはたくさん実った稲穂を表し、豊作を祈るまたは豊作への感謝を意味する捧げ物だと考えられます。また、お祭りに来た人たちは花を分け与えたり、くるくる丸めて自宅の屋根に放り投げると、病氣や火事にならないと言われています。

さて、この花籠を背負う・担ぐ人がこの祭の花形で、花男と呼ばれます。多くはお相撲さんのように豪華な化粧まわしをしています。花男を務める資格も厳しく決まっており、例えば、20歳になっ



花をいただく(2014年 智頭町)

問合せ先 県教育委員会文化財課 【電話】0857-26-7934 【FAX】0857-26-8128



【のうみそちゃん】 作者 藤本 千都さん

た独身男性、きちんとした正しい行いができることなどをクリアなくてはできませんでした。これは、地域に人がたくさんいて、誰もが花男をできるわけではなかった時代の話ですが、それだけ地域にとって大事な役割であったことが分かります。また、20歳という節目を地域が祝い、祝われた青年は地域で見守られていることを実感し、地域の一員として定着していく意味合いもあると思います。

昔から続く行事には、花籠祭に限らず、こうした様々な思いが込められています。秋はお祭りの多い季節です。今年は皆さんの縁ある土地のお祭りに触れてその意味を考える機会をぜひとりたいですね。

花籠祭について詳しく知りたい人は「とっとり文化財ナビ」へ <http://db.pref.tottori.jp/bunkazainavi.nsf/index.htm>

あなたの地域にある祭・行事を調べるには「鳥取県の祭り・行事データベース」へ http://digital-museum.pref.tottori.jp/contents/jin601_search.asp



花籠奉納(負い花) (2014年 智頭町)